

池田草庵先生に学ぶ会 令和六年六月一日 まとめ

與<sub>二</sub>姪盛<sub>一</sub> (二) (担当 良子 西村 宮崎)

亦可<sub>二</sub>遵<sub>一</sub>奉伯兄之意<sub>二</sub>也、  
伯兄之意固不可違、而我之志亦不可廢、

読み

亦伯兄の意を遵奉べきなり、

伯兄の意固より違うべからず、而して、我の志も亦廢すべからず。

言葉

意<sub>二</sub>こころ<sub>一</sub> 思い、願ひ 遵奉<sub>二</sub>ジュンポウ<sub>一</sub> 決まりなどに従いそれを受けつぐ 固<sub>二</sub>もとより<sub>一</sub> 言うまでもなく  
顧<sub>二</sub>かえりみる<sub>一</sub> 心にかける 心配する

訳

また、兄の思いを大事に守るべきである。兄の思いに違つてはいけな  
い。しかし、私の思いもまた捨てないでほしい。

汝能可<sub>二</sub>爲<sub>一</sub>我長顧<sub>二</sub>後慮<sub>一</sub>矣、  
途中過<sub>二</sub>丹波<sub>一</sub>見<sub>二</sub>小島伯輿<sub>一</sub>伯輿有<sub>二</sub>何議論<sub>一</sub>

読み

汝能く我が為に長く後慮を顧みるべきかな。

途中丹波を過ぎ、小島伯輿に まみえ 見る、伯輿とは何か議論あり。

言葉

顧<sub>二</sub>ココ<sub>一</sub> かえりみる

後慮<sub>二</sub>コウリヨ<sub>一</sub> 後の気がかり

小島白輿<sub>二</sub>丹波柏原の人<sub>一</sub> 藩儒 草庵の幼い時から親しい

訳

お前は、十分に私のために後のことを心にかけてほしい。

途中、丹波を過ぎて、小島伯輿に会うだろう。伯輿には何か議論することがあるだろう。

至<sub>二</sub>其土<sub>一</sub>訪<sub>二</sub>大橋君望<sub>一</sub>、君望見<sub>二</sub>我所寄書<sub>一</sub>、  
有<sub>二</sub>何舉動<sub>一</sub>、此我之所欲聞也、

読み

其土に至りて大橋君望を訪ねよ、君望我が寄せた所の書を見て、何か舉動有り、  
これ我の聞くを欲する所なり。

言葉

土<sub>二</sub>大地<sub>一</sub>、ふるさと

訳

郷里に帰つて大橋君望を尋ねよ。君望は私が書いた手紙を見て、何かを起  
こすことだろう。それこそ私が聞きたく思ふところだ。